



遠13
1278
02

1278
32

朝夷巡島記全傳第七編卷之三
子くらひごめりては
居人よきるるるりし
今水のこと、
回れる暇は
あはれ

朝夷巡島記全傳第七編卷之三

東都

松亭金水編輯

續輯第三

誠忠諫父與祖父
密使渡口失路費

そと栄辱小因て操と易さる。士人ども猶克が。況や婦女ふむく。途
始めの渋谷が計らひ道あり。思ひた。大屋高堂。冊う。争う。美
背くやと思ひ。現人間の住居する。家あり。疑り。結構善美と
盡る。富貴小忽地心。君小媚と献する。君ます。寵愛あり。綾
羅の褥珠の床以前。換る。歡樂。その操。忘る。上る。小思ひ。これ
羽林家。色小愛香と美。日夜。酒宴と設け。歌舞音曲の純
間。彼紂王。長夜の娛樂。是の過。元善信。始先



明徳編卷之三

と心ある輩の眉と擧めて憂ふものなり。平生ありと奉ふべきも憚るべし。況く
 諫と奉ふべき便もあらず心との。且暮小苦む。執権平の時政の年老といひ外戚
 あり。強て諫むべき仕ふ在るが。あざ顔めて過おける心の裡に誅けしこと。諷ら
 れ者もまじしこと。是より高北條泰時いひまご若年ありといひ忠孝篤く文武を
 勵ふ人勝り性なれば君廣幡の局とまじ。只管酒宴宴旋舞耽るふと悲しく諫め
 ねむと思ふとも既小祖父ありまご父あり。超て諫と奉らん人君父の礼も背けり。と
 思ふものなり又びがごとく。密中野能成成対。近曾君の行状。小人君の所為あはれ
 竟小國家の害と生ぜん。在下深く見と憂へ諫め奉らんと思ふとも。若年の身と悲しく口
 と噤ふとあるものなり。足下君の寵臣あり。且暮以前侍身なれば折と見合せ國家
 の為強て諫めまらざれば。元老の棟めり。却て左右の棟と容らるものなり。と赤
 心竭て言しこと。中野の例の奸佞ある。泰時のまご若輩あり。君の行状と種ふ

諫と奉ふこと言し。頼家大怒り。のひ渠が祖父時政の父時時も言ふ。若輩の身
 の分際あり。烏海がまご敦圍う。まご多時風吹て殊ふ思ひ。泰時とて北條へ
 下。隈小鎌倉へ来まらざれば。固く制しうけまご泰時の父の命。北條へまごあざれば。彼
 地に至りて蟄居し。且暮小書と讀て往昔の人と友あり。その徒然と尉心さぬ。後
 鎌倉のまごとき。廣幡の局世と辞て君の憂の床小沈。まご後北條興。遠
 ざりぬ。まごとき。人の死と欲がまらねど。この憂へと除きまら。思ひつあるものなり。
 いまご父より許されねば。鎌倉へも参まら。猶北條小居。まご頃。陸奥。北條
 城の山論の檢断使。北條氏の計らひあり。朝夷多秀近。小發足。まごの風聞。泰
 時の眉と擧め。誠しうめとされ。既まごの分明あり。許まら。國家の大事。餘
 所ふてあまら。まご。直小供人の準備あり。道と早めて。第百目の。若暮小到。まご。多
 時。何もの。まご。遠まら。まご。泰時。先頃。彼地。下。まご。石。まご

此許に被らねど言すきるの在り。推て是まを参りて祖又君小洋謁と許しと
言さふも何れか急の大事とて駐めんやもはけむ。則時政へ如此と告げ
時政北叟咲も久く渠とんべ。頃といふも多し。多時則ち泰時と突の二回へ伴
るべ。時政いと奉て近く招き汝が身の上君より答ゆるふあ。多時君の怒も
怨と。頃小領地へ逐遣し。真忠のいへ所。此方の慎の。法違ふ未だ。仔細
何と尋ね。泰時近習の人と遠ざけ。風小美。陸奥。磐城山輪の檢断使
ふ。義秀と遣はる。當家の討らひあり。此の真のいへ。問は時政ら笑ひ大
事と。多何れか。珍事うあと思ひ。夫のて。在つら。如何も君の令ふら
義秀も今下ら。今朝頃小發足せ。泰時小膝と進め。若輩ら。才と。つて恐
き言。条もい。像ても知。如。陸奥。廣大。且邊境の。王令更。仍
も届。動も。无頼の悪徒威を逞。て。因て国司の。他。防。守

府と置。政と執。右幕府の。時。總。遣。捕。使。の。令。あり。守。護。地。頭。と
置。国。政。と。執。の。泰。衡。の。猶。の。令。従。り。因。て。自。ら。征。伐。の。の。
武。德。の。限。の。中。威。服。の。の。也。駕。の。後。の。程。も。任。任。の。城。ありて。
や。動。乱。の。緒。も。是。光。仲。武。功。あり。且。朝。夷。の。内。助。と。静。まる。間。の。磐。城。の。山。論。
這。回。の。小。事。の。似。れ。曾。て。良。の。令。を。領。の。檢。倉。の。檢。断。あり。當。否。と。定め。玉
ふ。り。も。穩。便。の。沙。汰。と。俟。べ。と。背。の。叛。逆。の。罪。同。が。不。と。理。と。静
め。り。這。回。檢。断。の。次。身。あり。忽。地。乱。と。曳。然。と。檢。断。使。の。下。向。す。和。田。山
の。輩。の。三。浦。土。屋。の。属。あり。武。功。智。量。の。勝。る。老。輩。の。克。難。然。の。
若。輩。の。義。秀。も。令。の。人。と。用。の。道。も。如。最。多。秀。の。勇。力。も。多。専。と。する
漢。士。も。智。量。の。試。も。老。輩。の。勝。る。器。量。あり。官。禄。の。人。自。侮
ぶ。侮。る。民。服。せん。何。と。以。て。后。来。の。靜。謐。も。彼。也。既。に。磐。城。四。郎。時。直

との守護人あり。渠ハ則祖父君の自應る者あり。諱の字とて賜ふ。規模あり。
 どの弱官とのひ且无才の徒るれ。尊とて守護の職居る。然れどよく知る。又
 朝事頗る才器あり。その威に時直ふ。今朝発足する。羽傲と飛と。
 強賢愚の界あり。思准る。今朝発足する。羽傲と飛と。
 さんと。何の仔細なき。但一面命令あり。忽地改る。上る者の恥辱を似れ。
 過て改む。君子の恥る所。遠境尚も乱ふ。及ぶ。大事あり。その赤心
 彰る。言も敢ぬ。時政の林。齒とひき出。呵と笑ひ。汝が才智。今始る。この
 祖父も甘心せり。然る。支程の。吾もあざんや。悔て其才の勇。且の
 才器と恃る。賢が。朝夷多秀。蹴落。呉人の。思ふ。便と。
 此頃君の口説如此。と。中野が執次。是僥倖と。秀秀。大任と。令。万の
 つの絆を異ふ。仕課せ。と。知る。仕課せ。夫と。秀秀と。罰。

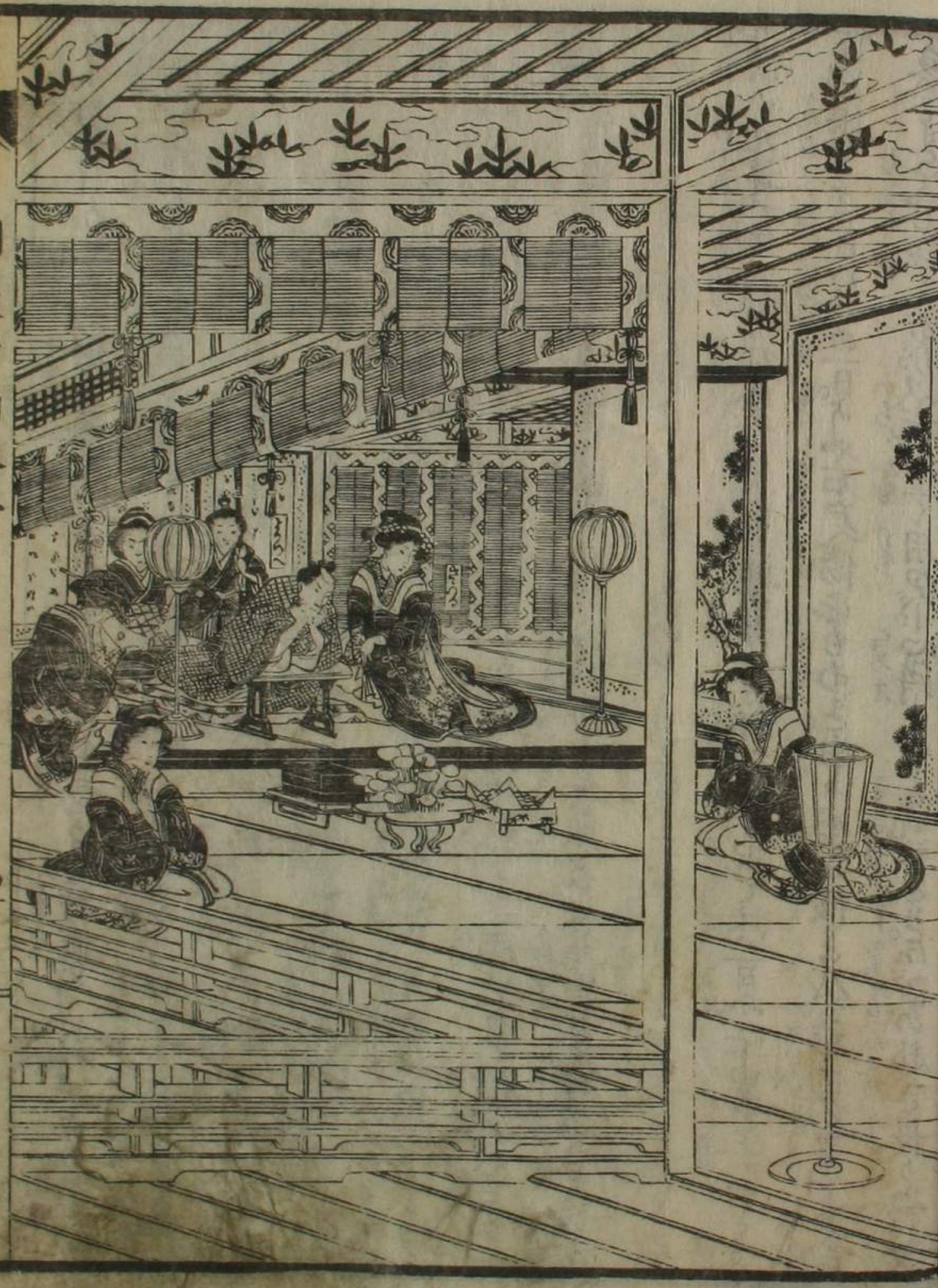
彼奴との憎む。あむ。その父和田の義盛。右幕府古老の臣。自ら高慢。諸士の
 上居。と。我意。募。吾。威と推ん。と。吾深。思ひ。竟。五。一家
 の者。滅。と。巧む。の。渠。他。故。其。愛。子。秀。秀。と。罰。
 義盛。威。自然と。挫け。諸士。教。と。二。事。と。面。全。と。計。術。村。あり。
 られ。你。怪。む。と。これ。と。時。と。面。個。の。他。人。の。一。点。も。も。渡。ま。と。
 你。諫。の。意。と。感。と。機。密。と。明。地。不。知。す。と。時。思。が。歎。息。も。言。せ。
 口。詞。返。奉。ら。の。と。恐。り。と。計。ら。ひ。と。美。り。と。一。向。歎。息。の。他。の。非。の。界
 と。辨。へ。と。然。と。も。賢。の。過。る。所。に。在。下。无。才。あり。と。彼。義。盛。と。
 上。忠。と。場。一。朋友。不。信。義。篤。く。ま。と。下。と。憐。む。の。士。也。実。先。君。の。眼。鏡。と。
 の。別。當。不。補。置。と。と。當。然。と。然。忠。直。の。武。士。も。時。の。推。貴。も。怖。
 已。が。思。ふ。と。包。と。言。述。と。あ。と。せ。れ。も。忠。直。の。士。の。

家の為に死せむ辞せん。況や権貴と憚りて。口と嚙らう張とる物と率とてやひべき。
 元来心半毫未も。巧言令色のみひとらる。然と権貴も憚らむ。我意不慕と宣ま
 ひて。多盛とて計策りて。遠く退けりるべし。阿黨の小令。進と昇とて後意不
 困家の大患とひきかえん。渠とて家一族と滅えりとの宣と。多く左様の者もあむ。當
 家の君の外戚とて。誰と重んぜる者もあむ。然とて常仁恵と施。笑とてお軍家
 と神仇一奉るものあり。や謀叛の輩ありとも。徳不懐きと叛心と翻えんと必定なる。
 況や多盛に於て。や這減の千慮の失も。やこれ過ふ。其後るべし。のりめ
 朝夷と召返され。他人の批評する。んや。の計りひとを愿りけれ。言葉と場と涙と流
 一理と推て諫めけむ。時政は惘然とて。更なる。詞も。空嘯とあり。多
 時破と眼と睜と。とと。泰時祖と父と附ひ。伶俐振る。その諫言。尾龍も猶餘り
 あり。畢竟家の仇とらる。侍人も退る。も子と孫と。事や。後采と思はる。

夫等のとも辨ます。他人と愛親族不悖。所謂悖德悖禮なり。先頃も佳例漫る。と
 いひ出で。無越君の不貞と被る。北條逐下と。後何の沙汰も。さる。全く外戚の義
 と思召と君の仁恵と恐と。を許すも在き。夫と。俟と我。俟と。地未と
 鳥游る。祖と父と附吾と。閣と諫と。言葉黄口の孺子何とぞ知ん。と退
 出と歸と。今宵一夜も。館と足と駐りて。无用なり。素未預と。逐出と。父が怒りと
 今更何との解術あり。泰時は平伏せむ。左右の袖と搦合と。策と。蹇と。出る
 間の隔紙多時。自破と。建切と。父時政と。對ひつと。无礼と。渠と。挙動と。然と。怒
 り。ひけぬ。然と。渠と。心中。強當家悪れと。言。さ。ひ。ぬ。は。是。時。の。戯。と。言
 きて。よ。陪話と。時政は笑と。年甲斐も。多。腹と。えん。渠と。小。言。あれ。な
 餘の子供と。今。ど。時。小。の。要。も。多。必。財。界。も。ひ。を。湯。島。と。心。は。す。
 其許と。ぬ。分。と。今。宵。密。館。注。翌。夜。む。北。條。歸。と。計。ら。ひ。わ。と。不。孫。

と思ふる。多時畏く。湯島不疑と分拵。其より突へ入り。泰時只管ふ父の怒の
 烈しけむ。必そ其処と退出。熟とて思ひ廻る。その計りの道のめい。言ふも足らぬ
 所為。諫めて止まる勢ひ。む。や腹心の者なり。他へ洩さざとふ。あ。ね。わ。
 心不款き。夜陰とて。武家の何ぞ。恐とて。あ。ん。と。即供へ。促とて。ま。ん。と。折湯
 島沸太郎馳来。今より出さる。と。道の程も。便る。不。実。大。刀。称。不。疑。と。令。下。す。
 ら。れ。夜。と。明。と。出。せ。る。べ。と。其。内。意。と。告。げ。し。子。と。思。ひ。親。の。心。持。つ。と。
 却て孝る。と。か。の。沸。太。郎。が。い。隨。意。と。あ。の。夜。い。ら。明。い。習。北。條。出。出。ら。り。
 嗚呼北條父子が奸謀憎む。猶餘あり。吾と滅さんとする者い。美盛なり。と。際
 め。果。あ。て。後。年。の。和。田。合。戦。頗。る。先。見。の。智。あ。る。似。言。と。北。條。氏。世。々。執。権。あ。り。
 り。慎。ま。り。守。り。誰。か。と。犯。さ。さ。威。不。募。ま。君。と。凌。ぐ。悪。行。超。過。不
 至。と。故。の。と。北。條。氏。の。高。運。る。而。三。度。冠。不。伐。勝。竟。九。代。の。栄。耀。と。究

む。侍。甚。し。の。人。間。活。休。願。か。て。その。翌。日。夕。時。密。不。湯。島。沸。太。郎
 と。已。居。間。へ。喚。込。げ。多。く。の。家。臣。あり。と。の。も。内。容。の。と。洩。さ。る。更。不。汝。一。個。の
 限。り。開。く。豫。て。心。け。ん。這。回。ま。密。計。と。汝。の。委。ね。ら。る。と。あ。れ。そ。次。弟。の。他。の。志
 彼。秀。乃。身。不。志。ぬ。大。任。と。課。あ。る。必。定。渠。が。過。え。と。巧。く。さ。る。ひ。さ。か。猶。熟。と。思
 ひ。る。不。渠。の。不。才。智。園。と。畧。量。勝。り。の。れ。が。想。ひ。の。外。不。仕。課。を。帰。り。未
 ん。も。あ。る。ま。然。す。と。此。方。で。巧。く。と。さ。る。組。語。の。ま。ま。渠。を。ま。あ。く。功。小。誇。り。と。
 の。り。當。家。と。無。ま。べ。と。これ。の。謀。計。と。新。小。巧。中。より。の。書。翰。の。般。最。四。郎。時。直
 への。密。書。の。れ。汝。を。持。て。路。を。急。ぎ。朝。夷。の。先。と。彼。地。へ。到。り。輝。と。計。り。と。の
 謀。計。の。簡。様。と。耳。の。傍。へ。と。つ。け。低。語。と。半。响。計。り。尤。書。翰。不。水。女。を
 載。り。你。時。直。と。腹。と。合。あ。て。足。る。所。に。補。ふ。心。傳。と。説。示。せ。沸。太。郎。の。額。着
 畏。令。逸。と。兼。り。ぬ。在。下。短。才。の。と。も。か。大。事。の。密。と。委。ね。ら。る。根。性。と。究



七



整鶴とほへ
 羽林遊興
 耽里ま

夕の故ありんと争う既畧存なき其段心易く時直ぬに誘てより君の
 川蔭と被りて。磐城の守護とありぬ。鶴思忘るべきありま。在下も舊友を。絆
 と討つ極めて宣し。在下が難を思ふ。既朝夷は昨日の朝も。これふ互
 う。在下脚の迅速と。その道三日後。と。渠小先。と。磐城の郡へ入るとい
 難。このをも取。多時。開。沸太郎。心易く。朝夷。始。より。吉見の冠者と文
 足深。吉見武彦の石古の莊へ入部せ。より。對面。せ。ね。び。き。序。と。り。彼。処。へ。立。り。二
 三日。返。り。ぬ。舊。友。の。情。と。述。ま。吾。が。政。事。の。善。悪。を。言。せ。ん。殊。も。り。あ。い。太
 田の莊。より。彼。光。仲。も。出。て。来。べ。く。ま。す。と。い。ひ。日。と。費。し。て。五。七。日。の。彼。処。へ。過。り。然。も。い
 渠。小。先。達。て。般。城。の。郡。へ。入。り。と。普。通。の。者。も。輒。か。ず。況。て。汝。は。日。小。三。里。と。歩。か。し。づ
 け。べ。渠。が。三。日。の。沙。の。一。日。や。石。戸。へ。傍。む。む。と。争。う。渠。小。後。ま。ん。や。這。回。の。事。と。幼
 び。の。ま。父。君。の。ま。あ。げ。以。来。に。重。く。用。ひ。ぬ。心。得。ず。と。説。示。ま。し。ん。説。の。赴。き。畏。り。ぬ。然。も
 今。より。出。立。て。絆。は。仕。課。甚。心。と。休。奉。り。ぬ。の。け。は。多。時。亮。示。と。貞。頭。の。頃。て。は。笠。筒
 の。裡。より。て。黄。金。の。包。ぞ。出。し。是。は。路。費。と。す。と。彼。地。に。在。り。ぬ。と。あ。い。高。時。直。より。受。取
 へ。との。小。沸。太。郎。の。額。着。つ。ぬ。黄。金。と。束。収。め。預。て。其。処。と。退。き。ら。ぬ。元。末。家。族。も。り。分。り
 され。ぬ。折。心。易。く。時。刻。も。移。る。旅。装。も。傍。輩。も。心。願。あり。今。より。榎。島。へ。参
 籠。す。と。一。夜。初。小。暇。と。告。ぐ。午。の。貝。が。頃。も。は。鉄。倉。と。云。て。足。小。住。を。走。る。程。小。武。を。ま
 る。荒。川。の。渡。口。へ。来。ぬ。時。に。黄。昏。て。山。端。月。は。白。く。う。せ。る。沸。太。郎。は。川
 邊。を。枯。芦。と。泣。き。ぬ。船。や。あ。と。向。ひ。と。ま。り。渡。し。船。と。思。は。く。人。西。六。來。と。云。れ
 僥。倖。と。小。を。招。き。あ。り。あ。り。嘯。と。呼。び。し。心。と。回。答。て。船。漕。を。故。人。川。と。渡。る。此
 首。小。の。嚴。ま。き。旋。あ。り。日。暮。て。人。渡。ま。り。我。們。太。く。罪。せ。る。氣。の。毒。も。り。故。人。川
 が。と。言。捨。て。ま。し。船。を。と。遠。く。呼。び。ぬ。吾。の。急。ぎ。の。故。り。て。一。刻。も。猶。傍。を。死
 小。夜。の。渡。す。と。云。き。便。り。ぬ。又。ま。り。他。の。人。も。り。吾。と。女。們。の。ま。り。旋。の。あ。ま。り。と。て

朝夷七編卷二

誰か見と見と咎めん鄙人の兎角物頑心にて。かゝる類ひのいそぎ多し。密に此首と渡す。芳資の心仕せん頃、来せよと切をせり。かの船長は漕に馬奴船頭乳の人。世の憎む吾們。さるの邑の農夫也。旅稼する轎走の類ひ寝徒言のふりある。所の技と甘き。かんと彼首へ渡す。の芳資の多寡ふもゆるべし。心任せと真と。方外のいせ。今船三個あり。その中へ三十百の黄金を恵まひ快く。向ひの岸へ渡す。して渠が足元と看あけてと心怒と密事する使より。黄金を惜間と。物と画餅と。人と思ふ。よく望と仕と。まづ其船と岸へ着。とと頃、漕を其黄金と。かんと来入と。いふを疑ひ深き奴多。口裡に吐き。胴巻の結目と解き。数の如く。嘗て我を乗せ。是と共せん。の船長と。水掉突そが。岸を着。沸太郎。閃く。船へ乗移。平生。五文。十文。暮。三十百。餘。過。船。買

る。急。ぬ。路。跡。戻。し。絹。布。の。横。宿。女。あり。左右。抱。て。寝。と。その。あれ。程。の。入。目。あ。と。京。と。一。個。の。船。長。と。一。員。と。改。り。票。収。ふ。船。長。と。船。長。と。頻。り。水。掉。と。操。る。程。船。忽。地。の。川。の。真。中。と。お。か。し。當。下。前。の。漢。士。が。衝。き。あ。り。て。声。を。揚。げ。る。旅。人。の。み。ぬ。路。費。と。多。分。持。た。ん。吾。們。當。所。の。農。夫。の。も。日。暮。と。此。首。と。渡。す。法。度。と。い。ひ。も。言。ひ。実。の。旅。人。の。懐。心。の。計。杖。も。り。お。ん。が。懐。中。取。り。と。胴。巻。の。重。い。お。の。開。と。悉。く。時。お。き。今。を。り。佐。七。の。去。来。頼。寄。と。罵。り。沸。太。郎。は。怒。り。も。忽。地。怒。り。眼。を。睜。り。空。合。子。の。れ。の。名。と。い。は。れ。吾。強。倉。殿。の。内。に。馬。二。匹。の。ま。れ。と。穩。密。の。令。と。被。り。北。へ。と。往。り。の。ま。と。汝。の。眼。あり。ま。り。奴。損。ひ。る。愚。人。們。と。此。首。と。排。御。と。強。盜。引。剥。と。者。を。奴。と。雄。子。も。暗。ず。い。ち。も。せ。自。ら。名。告。る。悪。業。と。も。逸。首。と。ち。落。し。川。辺。の。島。で。后。来。の。誠。と。は。呉。ん。と。左。の。鯉。目。甘。け。く。衝。き。あ。り。物。と。強。倉。殿。の。内。に。も。鈍。刀。の。尖。刃。と。も

朝夷七編卷二

夫等と恐まて一日もの活計がらみきり切り見事切てんよとのひも果えん
身と沈め腰と緊と抱き疎ゆる湯島透き振解く後おきてる僻者う刀の
鏑と下と揪り背の支燃あげんはよと伸し懐の胴巻とんとするや湯島との
とと緊と揪り筋斗ううと極んとまその打一個湯島が臍と蹴揚て船縁へ
撞と倒せ湯島はも多堪を尻佩刀とすまを枝とさとうち揮る太刀風天を
岸の楓を枯れもさぎ計りおえけし三つの賊の忽地お敷き怖とて水と飛
入り水の水煙を繞て三個飛入り往方もあまするりりるを沸太郎は船端小足踏
まて水面を霎時白眼呵と大笑を技者ゆ龍の腮の珠と取りて鰯鯉の衆
似る快い振も水底潜り船の敷板操技とる舌も舌と吾も食人些とも早
くの舟と四逆とるる水掉あり是侍と操と漸と向ひの岸不着き汀の枯草
踏もは踊り揚りて宵月の四逆と信と入るる怪もあられ今と心易をたて

途と早め往り僅に里餘りと過て幽かまが白亭の立並ひる所ありちや入里の
近きぬ腹さいて空るまら此処で食と素月お無くと終夜走るも難きとるはと
元来大膽不敵る心とて怖る色もや近づくて入るまら此の驛路の林
るれども両側の家数多し列りてうきま時刻のや遅きう太々門と鎖も酒食と索
むる家もけさいほわらうへ雷感りて往りまも半段餘りまら旅店と覚も傍の
戸と鎖とれと出入の口も開きて麴の端る玉籠あの大さるる鍋とひ人五六人四坐
し椀何事盛てり沸太郎は是れを飲りさ小踊り入り吾も急ぎて放す若
夜路と厭る来りとも飢小臨と困り酒ある散やあま其れ他お初めも食
物のあまの頭切てよといひまら傍の床机小腰をかかるとの婢女とお不き
へ温湯汲て来りまら二更も近きまら大方の活尽きて進りゆりも多しあまを遣り
二種三種の品あり酒の杉めてり望も進りまら湯島點頭て酒をあら

二種三種の穀で緋の足る頻に出ね急子そこの婢女の遠く。餘の粟は其
 弱と牛蒡の煮る血盛。白包の洋く鄙酒と湯桶次てと来ぬま。その香の
 と鼻と穿湯島大飲ひ。茶碗の液を酌で盛。巨飲の面を皺。多き酒の
 少酸く味ひ。池田伊丹で酒杉と洗ひ水。猶倍より酒の價に論は
 傾引換て持て来よ。の婢女も笑。さうして酒の思。と言ふ。是も
 猶醇酒少貯持。も下酒の價貴之普通。古物あるぬ。始より進
 らる然ら引換。あせん。皆ある。然れども。湯島の口飲其
 味ひ。実小。飯菱。龍水の味。も起る。醇酒。され。舌も。ち。稀代。か。鄙み。か。ち。醇
 酒あり。思ひ。は。是。飲。て。足。腰。の。芳。も。傾。心。も。さ。う。殊。小。鯉。の。美。も。洋。倉。も。
 味。も。ぬ。初。物。も。頻。も。飲。ひ。銚。子。と。換。え。美。酒。も。食。を。半。晌。許。元。来。強。酒。も。さ。と。飢
 小。臨。こ。と。の。油。の。如。き。濃。き。酒。も。量。も。飲。を。半。分。の。碎。と。發。と。吉。文。也。の。久。り。ひ。け。り。

續輯第四

英雄大晋旅客

説來歴得密書

斯て湯島沸太郎。信と心。思ふ。大事の使。請多。太くも酒。醉け。も。避。莫
 らの威勢。小。走。と。五。里。の。道。へ。輒。往。々。嗟。れ。心。地。も。り。け。り。傾。て。婢。女。と。喚。近。づ。け。
 價。と。問。ふ。如。此。と。言。ふ。と。懐。へ。も。さ。う。の。胸。巻。と。搔。探。さ。も。も。障。ら。ぬ。以。前。の。騷
 ぎ。下。へ。や。落。し。猶。涼。く。も。さ。う。し。腰。の。廻。り。と。探。す。も。併。ふ。ん。え。ね。且。驚。き。且。訝。り。
 思。ふ。高。小。這。奴。も。掛。ん。と。せ。れ。吾。才。と。沈。め。支。へ。と。空。を。り。て。奪。れ。も。勿。論。腹
 へ。掛。り。着。て。落。す。ま。も。さ。う。不。測。と。ま。あ。り。帯。ひ。き。解。き。て。さ。も。の。是。い。如何。と
 袖。袂。探。せ。ど。更。ふ。あ。る。も。さ。う。依。り。這。奴。も。不。奪。り。と。知。る。も。の。念。の。い。よ。と。齒。と
 切。れ。ど。の。甲。斐。も。され。ど。の。價。と。拵。を。許。さ。う。も。あ。ら。如何。せ。り。と。胸。の。り。ち。小
 沈。吟。も。詮。方。も。さ。う。其。う。と。通。り。て。さ。も。と。婢。女。と。も。主。人。不。逢。は。れ

けりといふ主人とて年頃三十九の大漢子ぶくと来てその傍腰もち掛て
 客人何の用ある主人則已と有りといひ放つて會釈もせぬ其処を廻り居る景
 勢近曾无礼なる奉動心五分の怒り萌せと并々咎むるまづ後ありと胸か 沈
 めて言葉と和らげ吾の強倉より陸奥へ殊も急ぎの要用あり。往者あるが所暮及
 び彼処の津で引刺さる。悪見さふ端りか會盤纏と取んとするほど吾も嗜免る
 本事とて。賊と懲りその場を離れ過てあま未の飢うまふ心急き酒食を
 ろてその價と償んとて今更な腹小拵せ朋卷る。諸の這奴等と挑とす。瑞る
 夫と奪つて。夫小聊心も着ぞ飽まで食ひ斯の酒食と食ふ悪見へと思ひ
 まんこそ武士の慚愧不堪所為るが。実今更詮方る。吾の強倉刀称の内
 少て二人とせふ花明ける。何其刀称の家臣仔細あれ主の名も吾名も今い言と
 けと。俸果て後ある処と戻る折不立寄て信と丈程の報いと。今宵の價と

其時ま在下小借て。餘もるげふ言かる。言葉もいも畢らぬ此家の主人の
 眼小用え頬張らしく傍と有り。此頃の物志と侍と油断る。錢もて飲食し
 鎌倉刀称と蓋不着て。價もかき往らんとする。高みん身津場と出會いと引刺ら
 小も二段倍と光根とあま涉りいも鄙めて強倉とてとをわね。酒杯でも錢もふ
 飲せよといふ觸も来ず。天四海の又倉生と恵とふ上ふ人の心とつる。鎌倉刀称の内
 内人の錢金も酒飲でも。いづれ何時の世。誰と極てかまらや。無命の狂言のえ
 より。傾置て往ら吾懐小物あり。言も知れ口様。酸の甘の活物の雜僻付てもち
 食ひ。いづれ身の腹小入ると返さんと得返さすと飽まで嘲け言葉の端。憎も
 憎まるといふも。身小大事の要用あり。元来已過失と思ひかへて猶種と言葉と端
 多く陪話と可比果の益。声も。光棍と侯白と散ふ悪口すれば。の時湯島赫
 と急きて酒気十分頭六升。身小の怯ももち忘。傾て刀の柄へとけ。身小の誤

言とて場と分鮮すれど言とて言とて言とて詮す。然と先棍と侯白とと
 武士ふ討ひて難言過言。名を捨つるも言とて言とて言とて言とて言とて
 推留め。者とも理不尽の。役侍と搦めよ。呼り声とて敢てかの主筆小口坐
 する。轎丈馬奴五六人破驚らうの。踊り出んと。身構ひりる折られ。應と回答の間
 もあせを。前後左右へ群と。追う。撲と湯島二期の浮沈と身と透巡足踏を
 て衝えあがり。刀と抜り放てども。泥の如く酔う身。肋骨弛く自在と。眼と
 睜このころと。どう圍と。轎丈も。天度刀と投放。在あふ。索とて捕足捕。さく
 撲ふ。あせ。心武。早と。屠所の羊のま。悔ひと詮方。下主人大
 音あ。眼と怒り。信と白眼。あ。孫倉刀称の内。欺き威す。吾といとも
 愚の鄙人と。侮り犯すの。果に酔狂ひの。又物三昧。い。意趣。誰と。砍
 ぶ。油の中。酒一升。舍利。飯五杯。喰せ。代。秋。鄙心。馬借。合。

い。袋の。兎。猫。お。慰。まん。太。後。ま。う。此。處。で。献。酌。ん。と。筒。茶。碗。を。か。く
 把て飲で。湯島。の時。全。身。索。ふ。撲。つ。け。ら。と。動。く。さ。る。さ。れ。ば。只。管。呆。れ。物
 も。い。え。當。下。か。の。轎。丈。ま。が。主。人。對。ひ。言。ふ。這。奴。憎。ま。悪。け。と。他。小。悪。成。せ。
 小。あ。た。刀。の。技。と。僥。倖。小。傷。ら。れ。る。者。も。あ。る。夜。三。更。向。ま。以後。の。懲。も。あ。ら。ふ
 ある。息杖。四五本。食。り。て。追。放。ら。ん。如何。か。の。主。人。も。今。五。七。分。の。酒。氣。元。小。衝。え。ち
 あ。が。り。汝。が。の。通。辛。き。目。を。逐。放。つ。他。い。や。其。棒。も。出。せ。か。の。息。杖
 と。あ。つ。搦。て。お。ん。と。す。湯。島。の。悔。と。辭。へ。ん。方。も。あ。る。身。と。足。搔。と。十。筋。の。索。小。搦
 め。ら。ま。る。魚。屋。の。鳥。ま。如何。と。術。い。や。主。人。の。漢。士。棒。り。揚。卷。の。脅。力。と。究
 め。既。小。敷。お。ん。と。あ。け。ら。此。方。の。隔。紙。と。閑。て。右。小。雪。洞。提。と。俟。主
 人。の。人。と。あ。り。と。智。ろ。け。ら。ま。て。見。か。ま。る。宵。小。宿。と。旅。人。と。其。名。何。と。あ。ら。ま。真
 弓。執。り。武。士。孫。倉。松。と。あ。ら。ま。年。齡。も。若。く。四。十。の。政。と。あ。ら。ま。五。十



朝霧七郎



荒川の
湯島
あは
あは

小近くんえぬるまづその棒と傍をかきせ。吾仮初の宿まて。拘をらふ死身ありあ
 ねど。相見送の由縁とし。又捨らまは最前より。動静と彼処でまきひ。酒食と做
 きて。銭とちりま。往るんとすと。誠むと。その商人の恒ありて。此方より。非道あり。然
 とも。吾思ふ。苟より。一銭の貯る。酒食と食。老いあは。開い。その人より。此
 人必も。然らば。殊に。夜目あり。面体と。定ふ。夫とも。其難かり。今近寄て。む。此
 小在下。傍て。忍ま。う。の。ま。知。己。ま。ず。と。の。所。の。同。様。倉。小。住。り。思。ひ。他。ま。く
 過。入。い。へ。とも。快。く。ば。ま。ま。其。酒。の。代。在。下。あり。償。ひ。て。ん。ま。づ。その。素。鮮。ま。く。不。礼
 と。陪。話。よ。と。雪。洞。と。其。処。小。置。り。か。の。索。と。解。の。湯。島。津。太。郎。へ。と。う。安。堵。す。る。め。の。う。ら
 瞳。と。定。め。て。う。ら。ま。と。其。面。と。誰。と。も。あ。ま。ま。不。猜。暗。ね。と。急。難。と。救。り。と。う。ら。ま。の。娘
 ま。ま。小。額。の。汗。え。拭。ひ。も。あ。ま。ま。所。の。同。様。倉。小。住。り。人。と。宜。へ。と。吾。の。つ。ま。面。と。認。せ
 ま。ら。あ。れ。ど。も。今。宵。の。時。宜。計。ら。ぬ。庶。急。心。の。憂。耻。と。救。ひ。ら。る。辰。守。る。ま。娘。と。い。ひ。今。更

小面がせめて。い。この。此。方。の。武。士。も。その。処。小。坐。と。して。認。り。れ。と。道。理。る。れ。在。下。い。る
 蔭。も。ま。れ。倍。臣。の。下。臆。り。これ。ど。も。武。士。の。端。ま。ら。れ。相。見。送。と。せ。ま。り。の。う。ら。ま。主。人。の
 ま。れ。び。と。酒。の。價。の。教。許。を。今。頃。拂。ひ。く。は。せん。夫。小。就。て。い。り。と。あり。價。と。取。て。物。と。活。
 是。商。人。の。恒。ま。ら。引。刺。小。出。會。奪。り。と。ま。ま。心。着。て。武。士。が。詞。と。魚。て。い。り。と。可。と。ま。
 捕。足。捕。縛。り。て。猶。その。う。小。棒。と。て。辱。ま。んと。ま。ま。と。不。仁。と。い。り。も。餘。り。あり。その。價。ひ。と
 小。償。り。汝。們。小。言。分。あ。じ。の。を。是。より。の。の。賓。客。が。為。小。耻。辱。と。雪。ぐ。べ。覚。悟。せ。よ。と。い。ひ。も
 果。ね。小。主。人。の。漢。士。北。叟。笑。ま。在。下。か。る。小。民。より。と。ま。ま。の。理。と。知。ら。ん。や。知。ら。ば。何。故
 斯。の。ど。れ。と。詰。り。の。の。答。も。せん。博。識。人。小。聞。と。あり。先。舜。の。民。の。先。舜。の。心。と。り。つ。て。心。と
 す。の。多。質。直。り。て。曲。ま。る。と。ま。傑。約。の。民。傑。約。の。心。と。心。と。す。の。由。多。暴。虐。あり。て。直。を
 り。今。泰。平。の。世。小。ね。ら。る。も。その。政。柳。營。小。出。を。獨。北。條。氏。権。と。執。て。と。が。ま。非。道。と。行。は。ら。る。
 人。北。條。氏。の。あ。る。と。知。つ。て。將。軍。家。の。あ。る。と。ま。ま。あ。ふ。於。て。人。の。心。只。權。勢。と。逞。ま。く。と。貪。り

掠む。エと言と。両刀と。帯一ぬま。北條刀称の。内。偽構。酒食。或い金銀米錢まで。掠り取らんと。巧む者。徘徊。と。救面。持。若も。ま。真。筋。の。入。の。後。の。出。を。あ。ん。を。と。思。ま。て。その。意。心。不。降。ふ。あり。その。宿。客。も。その。始。め。名。と。こ。そ。い。え。ね。孫。倉。中。三。の。人。の。臣。下。ま。う。と。ま。づ。其。権。と。倚。ま。う。と。備。と。そ。例。の。校。者。あ。り。あ。り。と。痛。く。計。ら。れ。の。ゆ。え。強。武。士。と。侮。り。犯。す。の。心。不。あ。り。ま。は。ま。し。と。い。ひ。放。ち。自。若。と。し。る。面。魂。九。者。ま。ま。と。う。け。ま。い。ま。い。その。武。士。も。重。ね。て。い。ま。は。沸。太。郎。い。巴。主。の。北。條。家。と。思。さ。る。ふ。の。ひ。罵。ら。ま。そ。心。中。怒。ま。す。の。ゆ。え。明。地。さ。る。使。ふ。ま。一。身。不。あ。り。ぬ。と。顧。る。の。こ。ろ。ま。い。ま。い。の。武。士。何。者。也。若。荒。と。名。諷。ま。す。時。宜。不。あ。り。は。是。の。ま。ま。こ。面。倒。ま。り。と。心。不。汲。と。故。意。と。呵。ま。り。知。ひ。北。條。刀。称。と。然。の。こ。ろ。の。奸。佞。の。あ。り。ま。い。と。當。時。威。勢。強。け。ま。い。世。の。嫉。と。思。さ。る。ふ。の。ひ。做。と。族。も。多。う。と。い。ひ。此。方。あ。り。ま。い。對。ひ。在。下。が。為。小。這。奴。等。と。懲。ま。り。耻。と。雪。ま。る。の。好。意。の。嫉。と。存。ま。る。の。實。在。下。懐。

中。不。有。う。と。も。あ。り。ま。い。と。酒。食。と。做。せ。い。此。方。の。鹿。多。被。等。が。无。礼。と。太。く。咎。め。ば。尋。で。麻。勿。心。も。見。つ。り。理。ま。れ。ば。是。ま。ま。ゆ。く。唯。止。ま。ん。と。思。ふ。の。と。右。の。價。い。足。下。より。在。下。借。用。せ。り。ま。い。孫。倉。へ。飯。を。後。何。方。か。返。し。言。ま。ん。苦。く。い。ま。い。貴。客。の。姓。名。ま。い。ま。い。と。い。ひ。け。ま。い。の。武。士。の。頭。と。も。揮。ま。り。争。夫。也。及。ぶ。ま。い。心。不。あ。り。ま。い。若。縁。尽。ま。い。再。會。の。期。ま。い。あ。り。ま。い。如。何。ま。い。報。ひ。ま。い。做。ま。い。ま。い。急。ぎ。の。旅。と。ま。い。子。の。刻。不。あ。り。ま。い。迎。し。預。ま。い。ま。い。ま。い。湯。島。強。て。も。同。志。然。ら。ま。い。の。議。不。從。ひ。て。好。意。と。默。止。ま。い。宣。ふ。如。く。急。ぎ。の。旅。昼。夜。の。差。別。も。あ。り。ま。い。の。ひ。ま。い。ま。い。帯。ひ。ま。い。孫。倉。の。兩。刀。腰。下。に。排。と。猶。厚。く。禮。と。送。り。ま。い。行。主。の。漢。士。の。迹。を。送。り。ま。い。呵。ま。り。ま。い。ま。い。笑。ひ。く。世。の。い。ま。ま。い。空。戲。ま。い。校。者。の。あ。り。ま。い。の。腰。小。兩。刀。あ。り。ま。い。錢。も。持。ま。い。飲。食。做。し。他。の。助。小。枯。鹿。と。馳。小。逐。し。鼠。小。一。尾。と。揮。て。逃。出。ま。い。孫。倉。中。三。と。稱。ま。い。人。の。家。隸。と。い。ひ。ま。い。二。と。あ。り。ま。い。北。條。和。田。島。の。人。の。箇。程。不。覺。る。家。隸。

と持たふと笑止るれ。まゝ呵々ともち笑ひ、心着て此方とあり向き賓客今宵の
 異るこゝて。圓らぬ造作と懸まわじ。抑渠と認まる人。尚余作の誠小ありや。何
 もこの家の郎等。あま同きて此方の武士。うち点頭て吾も定ふ其姓。色をいあらね
 とも北條刀称のには。内なる。如何なる筋。夜陰。及び何方と。うて急ぐ。凡そ北
 條刀称が當時の威勢。將軍家。も猶。故に家。仕する者。名も。下臈
 も威と揮ひ。あま。諸人と迷惑せむ。然る今宵。その身。深き過る。も
 せよ。か。穩便。去。足下。傍。思ふ。密事の使。ひ。北
 然もあま。錢。此。此。主。使。笑。賓客。北
 條刀称。太くも怖。開。官。故。野。野。小。東。西。百。で
 賣。僅。利。ひ。送。上。主。君。の。者。下。眷。属。の。あ。れ。権
 貴。も。の。怖。雨。風。往。来。途。絶。え。其。日。の。鏹。一。文。の。商。ひ。仕。入
 魚の。餓。ま。あ。ま。の。怖。け。ま。呵。々。然。の。世。の。諺。も。長。い
 の。小。美。と。今。宵。の。一。舉。の。賓。客。心。は。く。彼。此。と。も。不。穩。多。濟。の。傍。侍。あり。
 その。歡。び。小。残。の。殺。で。夜。と。俱。飲。明。是。の。者。の。里。あ。牛。馬。小。あ。く。身。と
 働。賃。錢。囉。く。の。日。と。送。無。下。小。後。さ。り。の。あ。れ。礼。義。作。法。に。え。り。あ。く。を。
 无。礼。と。許。未。席。侍。ら。の。慶。ら。ん。と。の。武。士。あ。ま。点。頭。鄙。人。の。奉。動。无
 骨。な。れ。ど。も。正。直。ま。心。の。あ。る。方。に。結。ぶ。樂。さ。の。の。あり。去。来。も。此。地。来。て。一。献
 酌。と。唆。さ。び。さ。い。と。下。坐。小。田。居。の。宴。時。酒。宴。と。做。ける。の。家。の。主。人。と。の。哥。り。と
 称。へ。そ。教。る。ま。と。大。々。る。主。の。渠。と。今。祝。て。宛。然。奴。僕。の。く。その。さ。ら。如何
 小。由。縁。あり。げ。ま。凡。者。小。何。じ。と。の。武。士。の。貌。と。改。め。始。め。の。家。へ。宿。り
 時。より。今。小。あ。ま。足。下。奉。動。心。と。着。て。小。元。来。か。活。斗。と。世。と。送。る。べ。き
 人。品。も。思。ふ。深。き。故。あ。る。と。夜。初。の。旅。宿。の。素。性。と。同。ん。卒。雨。小。何。と。と。

魚の。餓。ま。あ。ま。の。怖。け。ま。呵。々。然。の。世。の。諺。も。長。い
 の。小。美。と。今。宵。の。一。舉。の。賓。客。心。は。く。彼。此。と。も。不。穩。多。濟。の。傍。侍。あり。
 その。歡。び。小。残。の。殺。で。夜。と。俱。飲。明。是。の。者。の。里。あ。牛。馬。小。あ。く。身。と
 働。賃。錢。囉。く。の。日。と。送。無。下。小。後。さ。り。の。あ。れ。礼。義。作。法。に。え。り。あ。く。を。
 无。礼。と。許。未。席。侍。ら。の。慶。ら。ん。と。の。武。士。あ。ま。点。頭。鄙。人。の。奉。動。无
 骨。な。れ。ど。も。正。直。ま。心。の。あ。る。方。に。結。ぶ。樂。さ。の。の。あり。去。来。も。此。地。来。て。一。献
 酌。と。唆。さ。び。さ。い。と。下。坐。小。田。居。の。宴。時。酒。宴。と。做。ける。の。家。の。主。人。と。の。哥。り。と
 称。へ。そ。教。る。ま。と。大。々。る。主。の。渠。と。今。祝。て。宛。然。奴。僕。の。く。その。さ。ら。如何
 小。由。縁。あり。げ。ま。凡。者。小。何。じ。と。の。武。士。の。貌。と。改。め。始。め。の。家。へ。宿。り
 時。より。今。小。あ。ま。足。下。奉。動。心。と。着。て。小。元。来。か。活。斗。と。世。と。送。る。べ。き
 人。品。も。思。ふ。深。き。故。あ。る。と。夜。初。の。旅。宿。の。素。性。と。同。ん。卒。雨。小。何。と。と。

苦くもい月しくいひて笑て先人の姓名を問んとするも吾より先へ名掲げれる。折
 くれの後倉ある。和田廷尉の臣下して腰越獣六郎と云ふのこ。その身短才無能小を。
 数年彼家不在る。いま下鴨の域と離るる名湯も面目なき業あり。這回朝夷多
 秀め。使ふまで越のふらる。岩林より所赴き。是より鎌倉へ飯らり。足下笑はも及
 びつん。和田殿一家いも英雄ぞ。何ぞ思はるるのま。朝夷ぬの殊さ。小傑の
 弱官あり。近き頃まで諸と遊行。その先とて功名と著し。やも辱るるさ。まうの小先
 頃鎌倉へ飯らり。ひて程も。將軍家の近近不擇れ。入と隨従る。水草城戸の西士
 の。その家隸と称すれ。是より思顧の者あり。あま。信夫の莊司が舊臣ぞ。飯小臣
 下の列はつ。此まの世の埋り。隠るるも英雄あり。若松をうの人のわ。臣下あ
 せん。と縁て。望むる。所なれ。の曲問の。その来歴と。曲曲小祝。愉せ。此処の
 主の欣然と。もく貌と正し。ま。賓客へ。和田の稱の家隸。在る。宣ふ如く。朝夷の稱の
 武勇の縁て。及び縁と需め。二回の見。衆せ。原の。聊仕。推せん
 り。拙き。街ふ。似れ。果さ。端も。貴客と宿。且今宵の驥さ。ふらう。
 かる。條と。兼つ。と。牙の。の。僥倖。折。推。奉。と。持。言。さ。在。
 下。去。め。年。木曾。殿。俱。利。伽。羅。峠。ふ。お。平。家。の。大。軍。と。怒。ま。と。た。その。み。小。属。と。
 高名あり。岡田の冠者。李の子。名。幼名。と。別。若。の。ひ。さ。然。ふ。當。下。又。冠。者。平。將。知。
 教と組討。俱。深。溪。へ。陥。ひ。ひ。て。泉。下。の。微。忠。と。尽。せ。り。の。ま。功。の。あ。ま。と。も。賞。を。
 う。け。ま。在。下。その。た。五。歳。あり。母。の。懐。ふ。抱。ま。つ。信。濃。ま。あり。が。程。の。ま。木。曾。
 殿。栗。津。ふ。失。う。ひ。て。刺。へ。清。水。義。高。の。害。さ。れ。う。程。な。れ。餘。黨。の。詮。鑿。嚴。く。
 故郷。ふ。足。と。駐。め。ま。此。処。ふ。由。縁。の。人。あり。と。て。夫。の。便。ま。て。母。諸。共。幽。小。送。ア。と。時。と。
 俟。ふ。在。下。十三。歳。の。秋。の。頃。母。の。病。ふ。世。と。辞。つ。二。年。と。経。て。便。ま。つ。人。さ。死。て。あ。の
 家の。迹。と。嗣。げ。き。者。も。な。ひ。ま。里。入。の。勸。隨。意。即。其。人。の。迹。と。嗣。て。此。処。ふ

旅店の活業のまよりのまがう此まよ。朽きんとて修て一も思ひ悔とせざる者
 ども。まよ此他ふも志とて同ぢうするもの数多あり。若近困小乱ともあつて馳着
 てくる名。發き家と興えんと思ふ心ありまがう。邊土ありて行届然れば
 推名の剛若と。なんとも似つううね。前のまの名と續て今い猛八と喚せり異
 母兄岡田七郎。今猶信濃小在と。腹悪くく恃まがう。故小當時の訊もせん。
 訪ともせむくま小居まがう。つて腰越の坐と峻巡高より小奉動。凡まじと
 思ふふより。卒雨まがうも同あすまの果して筋目正まがう。貴人小在けり。実ふか
 騒まがう。せいの。夜初小往まがう。問もそれもまがう。是を値偶の然らしむ。所
 ありあつらん。頻ふ歎息く止ま當下猛声と低り傳えまがう。彼人の和田刀称の三
 男と世の披露と做まがう。実木曾刀称の胤ふして。巴が捕つま小就まがう。
 既小胎孕とありし。小破るや。暫くも言の如く。又と父の親と深まがう。いそ

疎くや過行へま。この小腰越えい。開誰も言を所在下彼処不在まがう。元来下臆の
 ころれば。夫等の工と曲はあま。然まがう。今より。や十八年のそのむ。は。幾火のへ三歳
 小物まがう。得ひひま。珠の多病まがう。とて。廷尉とて疎まがう。鞆給。小母小まの
 兄と。小家ふせま。と宣ひし。母いし。本意まがう。思ひ。その頃彼処小務。乳母。小
 小その子と委ね。自害とて失ふ。小中んか。て。葉は。若子と抱き。在所。落んと。出まがう。残
 彼。逐。苗よと。廷尉が。命。在下。縣兵の頭とまがう。由井が。濱。ま。追著。小。僅三歳。ま
 阿左。九刀。称。乳母の。懐。小。拘。ま。ま。ま。その。怪力。の。薙。あ。ま。ま。及。び。維。く。ま。在
 下。もう。ち。擲。ら。ま。九。ひ。ま。ま。と。知。ま。ま。其。後。強。て。も。逐。ま。館。へ。飯。ま。云。と。緋。の
 赴。き。訴。へ。し。小。廷。尉。も。今。の。力。ま。ま。その。ま。拾。置。ま。ま。去。年。如。此。の。ま。ま。再。び。父。子
 對。面。し。し。當。下。より。し。將軍。家。の。昵。近。と。ま。ま。それ。の。ち。後。も。由。井。が。濱。に。小。艦。と
 小。捕。小。做。し。し。益。と。武。勇。の。譽。高。ま。ま。若。か。の。刀。称。小。見。參。せ。ま。思。ひ。ま。ま。真



盤纏を失
 湯島酒子
 窮乏

火之
 要慎

南房七編卷二

南房七編卷二

〇一七

る。在下と諸共。鎌倉へおきめり。然らば準備のその間。逗留するも苦。息
と信実。あてのふと。猛ハ大不歡び。争。這面の奇遇。黙止。直下。諸
共。鎌倉へ参る。汝達も如此心得。田居。者。示。般。小愛。一と。
管動。もつて。是。祝。か。折。外。方。小。音。あり。潜。戸。と。引。あ。け。入。未。三
個。獸。六。郎。が。在。と。左。右。を。寄。も。つ。言。葉。も。在。け。傾。猛。八。と。あ
見。や。哥。と。夢。け。片。蔭。へ。猛。八。と。坐。と。彼。処。へ。何。や。ん。安
時。低。語。あり。け。猛。八。の。渠。と。お。て。獸。六。前。へ。未。ま。か。互。の。素。性。未。盛。物。か。こ
う。何。と。累。ま。ん。在。下。適。武。門。不。生。ま。主。涯。か。在。ん。と。勇。士。の。愧。所。る。二。回。ハ
世。不。出。て。祖。先。の。名。も。輝。ま。ん。と。縁。て。思。へ。前。の。主。猛。八。の。不。束。也。借。錢。の。債
數。多。あり。在。下。と。嗣。と。責。ら。と。急。る。れ。ま。が。兎。角。あ。て。償。ふ。の。と。
身。の。原。心。の。財。用。足。ら。は。諺。の。小。切。取。強。盜。武。門。の。慣。ハ。と。受。る。れ。實。ハ。の。涉。と。

過。旅。客。錢。ある。奴。と。ん。と。路。上。出。て。と。奪。ひ。志。願。の。助。ふ。る。と。未。
入。も。令。と。と。其。賊。と。掠。ひ。の。然。と。這。奴。が。川。中。へ。盤。纏。數。多。と。齋。ま
旅。人。武。士。と。二。個。多。り。奪。ひ。と。商。議。と。袖。も。処。多。く。強。く。及。び。難。
殺。さ。ば。安。き。と。然。と。と。誠。め。お。き。と。守。と。組。序。武。士。が。
朋。卷。外。と。奪。ひ。と。各。小。川。へ。飛。龍。で。難。と。逃。ま。と。ひ。て。その。品。今。り。
未。う。思。ふ。小。筒。の。武。士。と。雨。不。お。り。雨。不。あ。る。ま。と。知。ら。此。処。へ。未。酒。食。と
做。す。も。因。縁。と。奇。と。と。ち。笑。ひ。諸。の。件。の。朋。卷。と。把。多。寡。と。改。と
む。れ。砂。金。お。と。五。十。兩。邊。曾。稀。と。獲。め。の。り。ま。が。汝。達。も。領。兵。え。ん。と。な。や
その。裡。と。改。ひ。の。表。書。の。表。書。の。記。し。る。書。翰。あり。の。文。を。披。と
看。ん。と。燈。火。と。燈。と。と。披。と。す。水。録。録。と。破。と。す。者。も。あり。要。時。既。す。不
其。火。不。醫。と。乾。と。せ。と。言。と。火。桶。と。と。未。者。も。あり。要。時。既。す。不

大々おほおほと乾くわいきぬらんと封ふうけきも徐じゆに披ひき板いたを裁きてその文ぶん解かいと讀よ下くだまそ。這こ面めん
當あ所ところの強ちやう者じやうと檢けん折せつうて下くだまを全ぜんく罪つみと負おかす為ための然しかれども彼かの強ちやう者じやう
頗さぶ才さい智ちあるれば万まん一いち首しゆ尾びを仕し課かして歸かへらむり威いと張ちやうん因よて密みつ山さん賊ぞくへ
陷おち穿くと構かまえをき渠みちを主ま從じゆ十四じゆ個こ餘あまを其その處ところへ陷おち入いる。其その謀まう計けいを汝なんぢを使つか
ふ。水みづ井いの夢ゆめも人ひとの洩はるべからざる。若かし一いつ舉きよ甘まく謀まうらば不ふ日にち小こ賞しょうを行なふ
べ。努ゆ々ゆ疎そ畧りやくあるべからざる。とを配ていえ叮てい嚙めいふ記きす書ふかありけき。猛まう
ハニとを見み畢ひまて。いふ所ところも容ゆるみあり氣けもれど強ちやう者じやうの水みづ井いの何なにも人ひと
あふらざる。さよと筒たの武ぶ士しと。その密みつ書しよをえとて途みち方かたもそののたふ人を嘲あざわ
笑わらふて居ゐりけき。

村田

朝夷巡島記全傳第七編卷之二 終

松まつ亭ていに文ぶん寄き杜と有あり至いたり不ふ可か
見みせし書しよ誓ちかふ月つき淺あるさる。山さんと書しよ
る。い
たづやまをいごをわをい
曲まをいさるのいねあり
し。今いまのいさる

